

道徳科学習指導案

指導者 T1 吉岡 慶佑
T2 行廣 弥生

- 1 学 年 第3・4学年 11名
- 2 日 時 令和4年6月2日（木） 第5校時
- 3 主題名 ほんとうの親切（B 親切，思いやり）
- 4 本時のねらい

ほんとうの親切とは何かが少しだけわかった時のぼくの気づきを考えることを通して、ほんとうの親切とは何かについて自分の考えを持ち、見守ることも親切の一つであることに気づき、相手の事を本当に思いやり、親切にしようとする心情を育てる。

- 5 教材名 心と心のあくしゅ
- 6 教材について

学習指導要領解説より

B 主として人との関わりに関すること

7 親切，思いやり

【第1学年及び第2学年】

身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。

【第3学年及び第4学年】

相手のことを思いやり，進んで親切にすること。

【第5学年及び第6学年】

誰に対しても思いやりの心を持ち，相手の立場に立って親切にすること。

【中学校】思いやり，感謝

思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

（1）主題観

自分のことばかりを考えたり，自分の思いだけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。互いが相手に対して思いやりの心をもって接することが不可欠である。思いやりとは，相手の気持ちや立場を自分の事に置き換えて推し量り，相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには，相手の存在を受け入れ，相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には，相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また，単に手を差し伸べるだけでなく，時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考えようとする態度を育てたい。

この時期の児童は，活動範囲も広がり，周囲の状況に気づきやすくなる。さまざまな人との関わりが増えるにつれ，「相手の役に立ちたい」「困っている人には親切にしたい」という気持ちも強くなる。しかし，その気持ちが一方的である場合が多く，相手が本当に望んでいる親切かどうかについては，まだ考えが及ばないこともある。また，親切な行いとは，具体的な行動にすることであるという捉え方も強く，見守ることも親切の一つであるという捉え方はまだ少ない。本教材の学習を通して，本当の親切とは何かについて児童に考えさせたい。

（2）児童観

本学級は，3年生5名，4年生6名の計11名の複式学級である。本校では初めての複式学級であり，期待と不安の中のスタートである。3・4年生それぞれ他学年のことを思いながら行動しようとしている。しかし，良かれと思い必要以上に手助けをしてしまったり，おせっかいな行動をしてしまったりする児童もいる。

本学級の児童に「親切」に関するアンケートをとった。

○これまで友達に親切にしたことがありますか。

ある 11 人 (11/11) 100%

○親切にするとはどうすることだと思いますか。

- ・物を拾ってあげること。
- ・困った友達に大丈夫？と声をかけてあげる。
- ・人を助けてあげること。
- ・遊びに誘ってあげる。

などの意見が出た。児童の中には、親切にすることは実際に行動してあげることだという認識が強い。

(3) 指導観

本時では、まず初めに会った場面について、『荷物持ちます。』と声をかけたのに、断られた『ぼく』は、どんな気持ちでしょう。」と問う。「せっかく手伝ってあげようと思ったのに。」「せっかく声をかけたのに。」など、おばあさんの気持ちを察することはなく、自分本位の「親切心」であることを押さえる。その後、続きの話を範読し、「しばらく考え、そっとおばあさんの後ろをついて歩くことにした、「ぼく」はどんなことを考えていたのでしょうか。」と問う。ここでは「自分の力で歩きたいから、そうっとしておこう。」「困ったら助けるからね。」「本当に声をかけなくてもいいのかな」など、おばあさんの思いを考えることができた「ぼく」の心情と、それでもなお葛藤しているぼくの心情に共感させる。また、T2が児童の多様な考えを【おばあさんに対して】【自分のこと】の二つに分類、整理して板書していく。

展開後半では、『「ほんとうの親切とは何かが少しだけ分かった気がした」ぼくは、どんなことがわかったのだろう。』と発問し、「見守ることも親切」、「声をかけなくてもおばあさんを思ってあげることが大切」、「自分にできることが何か考えることが大切」など、見守る行動も親切の一つだと気付かせる。そして、「みんなにとってほんとうの親切とはどんな親切なのだろう」と問い、「相手のことを考えた親切」、「本当に必要なことか考える。」等の発言が出たら、キーワードとして板書することで、最初の「声をかける」行為と後の「見守る」行為の違いが視覚的に理解しやすいよう工夫し、本時の主題「ほんとうの親切」について考えを深めていく。

7 他の教育活動などとの関わり

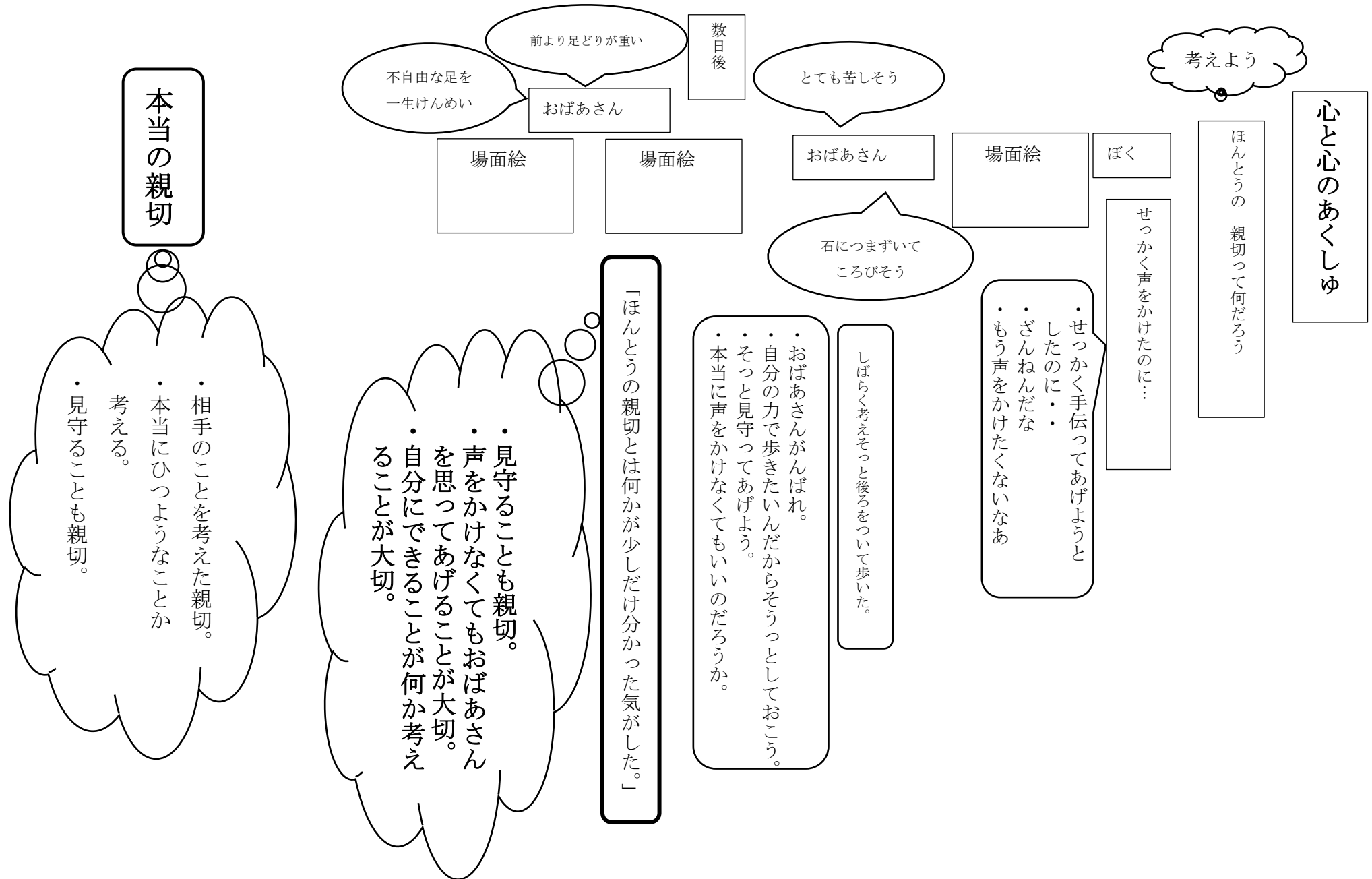
- 学校生活の中で、児童が相手を思いやる行動や言葉かけを価値づけ、全体場で褒める。
- 特別活動などにおいて、児童の頑張りを伝える。また、学級通信で児童の頑張りを保護者に伝える。
- 友達にされて嬉しかったことを振り返り、帰りの会で共有する。
- 道徳学習プログラムの「おたがいに気持ちよく、よりよい生活をおくろう」の目標に向けて、児童の意識を高めさせる。また、社会見学や学校生活で友達との関わりの中で「親切的な行為」について意識させていく。

8 指導過程

	児童の学習活動	主な発問（○） 予想される児童の発言（・）	指導上の留意点（○） 評価の観点（☆）
導入	1 アンケートの結果について知り、本時のめあてをつかむ。	○「親切にすることはどうすることだと思いますか。」というアンケートの結果を発表します。 ・物を拾ってあげる。 ・困った友達に大丈夫？と声をかけてあげる。 ・遊びに誘ってあげる。 本当の親切って何だろう。	○事前にアンケートをとった結果を提示し、めあてを意識させる。
展開	2 教材「心と心のあくしゅ」を聞いて話し合う。 ○P133 11 行目まで聞く。 ○P134 18 行目まで聞く ○P134 18 行目から最後までを聞く。	○「荷物、持ちます。」と声をかけたのに断られた「ぼく」は、どんな気持ちでしょう。 ・せっかく手伝ってあげようと思ったのに。 ・せっかく親切に声をかけたのに。 ・転んだらどうするんだ。危ないよ。 ○しばらく考え、そっとおばあさんの後ろをついて歩くことにした、「ぼく」はどんなことを考えていたのでしょうか。 【おばあさんのこと】 ・この前より大変そうだなあ。 ・自分の力で歩きたいから、そっとうとしておこう。 ・おばあさんががんばれ。 【自分のこと】 ・困ったら助けるからね。 ・本当に声をかけなくてもいいのかな。 ◎「ほんとうの親切とは何かが少しだけ分かった気がした。」ぼくは、どんなことがわかったのだろう。	○T1, T2 で役割分担をし、教材文を範読する。 ○おばあさんの気持ちを考えようとはしていないぼく的心情を捉えさせる。 ○「みんなもこんなことない？」と問い、これまでの自分の経験を想起し、ぼくの気持ちに共感しやすくさせる。 ○葛藤したうえでついていくことを選んだぼくの気持ちを考えることを通して、何もしないで見守ることにしたぼくの思いに共感させる。 ○見守る行動も親切の一つだと気付かせる。 ○道徳ノートに自分の考えを書かせる。一人一人しっかり

		・見守ることも親切。 ・声をかけなくてもおばあさんを思っあげることが大切。 ・自分にできることが何か考えることが大切。	りと考える時間をとる。 ○T1, T2 で机間指導を行い、児童の把握を行う。 ○グループで考えを交流させることで、親切にも多様な考え方があることに気付かせる。 ○T2 が児童の考えを分類、整理して板書する。一般化に向けてキーワードとなる言葉を板書する。 ○「ぼくはおばあさんに何もしていないけど、これって親切なの」と切り返し発問をすることで、親切は行動することだけではないことに気付かせる。 ☆見守ることも親切の一つであることに気付いているか。(道徳ノート, 発言)
		○みんなにとって「ほんとうの親切」とはどんな親切なのだろう。 ・見守ることも親切。 ・相手のことを考えた親切。 ・本当に必要なことか考える。	○グループで話し合わせ、各班でジャムボードに書いて発表させ、多様な意見にふれさせる。導入のアンケート結果の「親切」な行動とのちがいに着目させ、本時の主題である「ほんとうの親切」とは何かについて考えを深めさせる。
終末	3 本時のまとめを行う。	○今日の学習でどのようなことを学びましたか。また、これからどう生活していきたいと思えますか。 ・相手のことを思って親切な行動をしていきたい。 ・これから、友達の様子を見て、見守ることもしていきたい。	○振り返りの視点を提示し、一人一人道徳ノートで振り返りを行わせる。 ○授業の前と後での変化に気付かせる。 ☆教材を通して考えたことをもとに、ほんとうの親切とは何かについて考えを深めることができたか。(道徳ノート, 発言)

9 板書計画



10 成果（○）と課題（▲）

- T1, T2で役割分担をし、範読をしたことで登場人物の気持ちに共感させることができた。また、導入から親切に焦点を当てて発問をしていったため、親切について考えることができた。
- ペアトークの状況を机間指導し、意図的指名で本時の主題に迫る発言を出させることができた。



- ▲導入で提示した授業前の親切と、授業後の振り返りに出てきた親切を比べ価値づける必要があった。その結果、授業前後の児童の考えに大きな違いがみられなかった。「声をかける親切」と「そっと見守る親切」は、相手のことを思う気持ちに違いがあることを押さえ、「ほんとうの親切」という新しい価値に気づかせる必要があった。
- ▲ジャムボードを活用し、各班ごとに考えをまとめた。しかし、交流前にほかの班の意見が見えてしまっていたため、児童の思考が止まってしまうことがあった。ICTを効果的に使う場面、方法を再考していく必要があった。
- ▲本時のねらいの「相手の事を本当に思いやり、親切にしようとする心情を育てる。」を達成するために、児童の親切な行いを日頃から取り上げ、相手を思いやることの大切さを継続して指導していく必要がある。